

	児童 質問	A+B(%)	保護者 質問	A+B(%)	項目	考察	今後の取り組み
確 かな 学 力	(9)	97.3	(7)	84.1	授業がよくわかる	児童と保護者の認識に差がある。	今後ともICT機器も活用しながら、わかる授業に努める オンラインドリルを活用し、習熟を図る。
	(3)	89.1			授業のはじめのめあて	児童が主体的に授業に取り組めるよう めあてを持たせ、振り返りを工夫してきた 成果が現れた。	児童自らが「学びたい」と思うような単元の流れを考える。 学習のゴールをはっきりと示し、ゴールに到達するための 学び方を選択できるようにする。
	(8)	84.4			授業の振り返り		
	(6)	83.7			話し合い活動	友達の意見を聞いて、自分の考えを深める 児童が少しは増えてきた。	対話する前後に、自分で「考える」時間を持つことを意識 させることを継続していく。ペア活動やグループ活動での 話し合い活動の場面を増やしていく。
	(7)	85.0			タブレットを使って発表	タブレットを使って発表することが楽しく なったと答えた児童は減ったが、積極的に 意見を伝えることが難しい児童も、タブレッ トPCを使うことで、意見を伝えることができ た。	さらにタブレットを積極的に活用し、意見を交換する場面 を増やし、積極的に発言するのが少ない児童の考えも含め て、他の人の考えに触れる増やす。 学校行事等でプレゼンする機会を設け、さらにタブレッ トPCを活用していく。
	(1)	85.0	(23)	83.3	学校での読書	朝、図書室の本を借りることができるよう になったり、図書室の本を学級文庫として学 級に置くことにしたことにより、読書する児 童が増えた。	図書室の本を学級文庫として貸し出すことを継続する。貸 し出す学級文庫の本を自分たちで選ぶようにしたり、朝読 書の時間にクラス単位で本を借りる日を作ったりして、本 に親しむ機会を増やす。
	(2)	63.3	(1)	27.0	家庭での読書	学校では読書をする児童が増えたが、家 では読書をしていない児童が多い。	「家読(うちどく)」の取り組みを継続し、保護者が一緒 に読書に取り組む家庭を増やしていく。「ノーテレビ・ノーゲ ム」の取り組みの期間に家で読んだ本の題名や読書時間 を書く。
	(12)	56.3	(9)	36.5	進んで学習	児童の肯定的回答は、昨年度よりも少し増 えたが、保護者の肯定的回答は減った。児 童に進んで学習する習慣が身につしてい ないことがうかがえる。	自主学習のテーマを設定させたり、自主学習のメニューを 紹介したりして、児童が自ら学ぶという意欲付けを図る。 タブレットの持ち帰りを進め、ラインズ(オンラインドリル)を 有効活用する。
豊 かな 心	(13)	89.1	(4)	69.0	進んであいさつ	自分から進んであいさつできる児童の割 合が、児童の回答よりも少ない印象であ る。恥ずかしさからか、目が合わない、目 をそらす児童もいる。	「あいさつチャレンジ」など委員会の取り組みを行う。 相手の目を見てあいさつするように呼びかけを行う。 「はっぴーずまん」など外部人材の活用も考える。
	(14)	85.7	(17)	63.5	家族・地域の方へのあいさつ		
	(16)	85.7	(14)	94.4	友達に優しく 友達と仲良く	友達に優しくできる児童の割合が昨年よ りも減っている。	道徳の授業で、資料にある状況を、自分事として考えられ るように展開を工夫する。 ポジティブ教育に引き続き取り組み、自分の良いところ、友 達のよいところを意識できるようにしていく。 ソーシャルスキルを取り入れることによって、相手を大切に 考えて行動できる態度を育てていく。
	(19)	91.2	(6)	96.0	学校は楽しい	「学校が楽しい」「みんなで何かをするの は楽しい」と肯定的に回答した児童の割合 がどちらも9割を超えた。縦割り遊び、大関 フェスティバル、遠足、運動会、さつまいも、 縄跳びなど多くの異学年交流ができたこと も一因だと考えられる。	引き続き、「魅力ある学校づくり」「ポジティブ教育」に取り 組む。 来年度も異学年交流を計画的に取り入れていく。 学校行事だけでなく、授業の中でも、おもちゃランドや下級 生への読み聞かせなどの異学年交流を続けていく。
			(24)	82.5	いじめのない学校・学級づくり	保護者の肯定的な回答の割合が昨年を下 回ったが、これは、「わからない」と回答した 割合が増えたため、否定的な回答は昨 年同様少なかった。	いじめを未然に防止するために、すべての児童が安心、安 全に学校生活を送ることができ、授業や行事に主体的に 参加し、活躍できる魅力ある学校づくりを学校全体でさら に推進していく。 年3回の保護者対象の「いじめ悩み調査」、年2回の児童 対象の「心のアンケート」、その後の教育相談(個人面談) を引き続き丁寧に行い、いじめの早期発見・早期対応の対 策を講じていく。
	健 康 な 体	(22)	84.4	(13)	66.7	すすんで運動	マラソン大会やなわとび大会の前に、学習カ ードを使って、児童がめあてをもって運動に取り 組むように意欲付けを行ったことで、肯定的な回 答をする児童の割合が高くなったと考えられ る。
(23)		91.8	(12)	65.1	家での歯磨き習慣	家で食後の歯磨きを丁寧にできていると 回答した児童の割合が高かったのは、保 護者の協力のおかげだと考える。しかし、 保護者の肯定的な回答は児童ほど高くなく、 認識の差が感じられる。	保健だよりや親子での歯の染め出しによる保護者への啓 発を継続していく。 虫歯治療のお勧めを根気よく行っていく。
(25)		81.6	(11)	54.8	スマートルール	テレビ・ゲーム・ネットの利用のルールを守っ ていると回答した児童の割合が、昨年度より増 えた。「デジタル障害」について意識する児童が 増えたのだと考えられる。しかし、保護者の肯定 的な回答は昨年同様であった。	SNSに関する指導を、長期の休み前に計画的に行ったり、保護 者・家庭への啓蒙を継続していく。 クラスの中で、SNS利用についての話し合いの場を設けるなど の取り組みを行い、自身で生活習慣を改善していこうとする力を 育てていく。
(26)		95.0			地域とかかわる学習	地域とかかわる学習(校外学習や体験)に 楽しく取り組むことができた児童の割合が 非常に高かった。地域に出かけたり、地域 の人を招いたりして、地域の人から学ぶ学 習は、児童の喜びにつながっていると考え られる。	今年度は、感染症対策を講じた上で、昨年度よりも地域と 関わる学習を積極的に行ってきた。来年度もさらに工夫と 改善を図りながら、地域との連携を深めた教育活動を行っ ていく。
		(26)	94.4	情報の発信	保護者の肯定的な回答の割合は、今年度 も9割を超えた。学校だより「大関のこ ども」やホームページ、学級だよりなどで学校 や児童の様子をこまめに発信したことが評 価されていると考える。	今後も、学校の教育活動の様子を保護者や地域の方々 により深く知っていただけるよう、学校の取り組みや児童の様 子をこまめに発信していく。	